



採血合併症について



採血は様々な病気の診断や病状の変化、お薬や手術などの治療の効果をみるためにも、欠かすことができない医療行為です。

比較的に安全性の高い手技ですが以下の合併症のリスクも伴います。

必要性和危険性をご理解頂き、採血を受けられるようお願い致します。

また、採血による合併症は保険の範囲内での治療となります事をご了承下さい。

◇ 皮下出血、止血困難

採血した血管から血液が漏れ出し、皮下あるいは体外に過剰な出血が起きることを言います。

痛みが強い場合、冷湿布や鎮痛薬を使用しますが、通常、皮下出血は自然に吸収されていきます。

◇ アレルギー

採血に使用する用具、消毒薬によりアレルギー反応をきたす場合があります。最も頻度が高いのは消毒薬のアルコールに対するアレルギーです。

局所の皮膚反応については経過観察を行います。

アルコールに対するアレルギーのある方は、別の消毒薬を使用しますので事前にお声がけ下さい。

◇ 血管迷走神経反応

採血中あるいは、採血後一時的に血圧が低下し、気分不快、冷汗、失神などが生じることを言います。

若年者に多く、頻度は100～1万回の採血に1回程度です。

このような症状が見られたら、採血を中止しベッドにて様子を見ます。

◇ 神経損傷

痛みや痺れが主な症状で、1万～10万回の採血に1回程度起こるとされています。

1日程度、もしくは1週間～3ヵ月ぐらいで症状は消失すると言われています。

◇ 感染症

採血操作に伴って、病原体が体内に侵入して感染症にかかることを言いますが、我が国では実際の感染例の報告はありません。

